

# Bell Forum

ベルフォーラム

2010  
AUTUMN

No.30

地域と職員と共に栄えるチーム



運動会

撮影：企画室 室長補佐 植中 勇人

- 医療最前線：**中央手術部の挑戦**
- 連載：登録医のご紹介
- TOPICS：医療機関からの紹介件数が月2,000件を突破  
外来化学療法室を拡張しました  
第2回南大阪医学教育セミナーを開催

# 中央手術部の挑戦



中央手術部

部長 さかもと たかのり  
坂本 尚典

## Profile

平成元年 奈良県立医科大学卒業  
奈良県立医科大学付属病院 麻酔科 研修医  
平成3年 大阪脳神経外科病院麻酔科 医員  
平成6年 奈良県立医科大学麻酔科学教室 助手  
平成13年 奈良県立医科大学付属病院集中治療部 助手  
平成15年 // 学内講師  
平成17年 ベルランド総合病院 麻酔科 副部長  
平成20年 ベルランド総合病院 中央手術部 部長

## 資格

麻酔科標榜医  
日本麻酔科学会麻酔科専門医、麻酔科指導医  
日本集中治療医学会：専門医  
周術期経食道心エコー認定医  
ICD（感染制御ドクター）

ベルランド総合病院手術室は中央部門として運用され、地域急性期医療の一翼を担う当病院の「心臓部」として機能すべく整備されています。

## 施設概要

東B棟地下一階に位置し、バイオクリーンルーム(JISクラス100)1室、一般7室(クラス1000)を擁します。中央材料室も併設し、広さ871㎡におよびます。

スタッフは、科長をはじめとする看護師25名、補助業務担当3名、医療事務2名、中材委託業者7名で構成されています。更に、臨床工学技士、薬剤師のサポートも受けています。

麻酔科医は、常勤5名と非常勤1～2名で構成、麻酔科医室も手術室内に配置、セントラルモニターとカメラ監視システムの導入により、効率よく安全を提供できるシステムを構築しています。

手術は外科系11診療科（外科、整形外科、心臓外科、胸部外科、脳外科、乳腺外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科）によるもの、また、高い清潔度を要する内科的処置時にも利用されます。

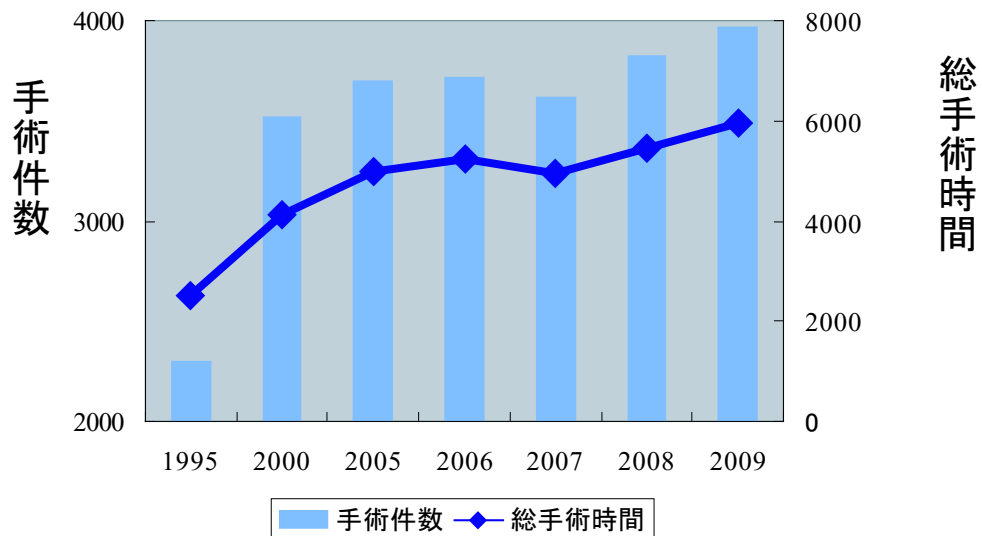
## 特色

当院は、以前より急性期病院の役割を果たしてきました。昨年「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受け、従来の手術に加え、腹部悪性腫瘍への腹腔鏡下手術など、専門性の高い先進医療に対応しています。さらに、頭頸部腫瘍は府下において有数の手術をおこない、胸部外科もセンター化されています。また、人工関節手術、機能的外科にも積極的に取り組んでいます。

一方、腹部外科、心臓外科、脳外科をはじめとした各科は、広く救急医療にも対応し、堺市の救急医療体制に参画しています。産婦人科はOGCS（産婦人科診療相互援助システム）の準基幹病院であり産科緊急手術に対応しています。

## 現状と展望

手術件数は、順調に増加してきました(図)。また、臨床研修指導病院の指定により、卒後1-2年の新人医師を受け入れています。教育の労を要する一方、研修後も定着し、医師不足の言われる昨今ですが、マンパワーの増大に寄与しています。さらに、手術時間、麻酔時間、全身麻酔件数も増加しています(図)。これは、手術の高度化にともなう長時間化に加えて、研修指導病院としての役割も果たしているためと考えられます。



最優先課題は、手術が「人間の経験する最も強い侵害、ダメージ」であるかぎり、「安全・安心な手術の提供」以外にありません。少しでも苦しみや不安が少なく、安全に手術を受けられるようにと、創意と工夫を重ね、その成果についても自負があります。ただ、近年、これに加えて「効率的な運営」が要求されています。医療資源の有効活用の見地から、「できる急性期病院」に手術を誘導する政策がとられ、当院手術部は繁忙を極めつつあるためです。手術室の効率的運営のためにいくつかの改革をおこなってきました。



腹腔鏡下胃全摘術

- ・手術室の増加 (7→8室へ)
  - ・一足制の導入による履き替えの廃止 (入室ハッチの停滞防止、室内申し送りによる患者取り違えの防止を実現)
  - ・臨床工学技士・薬剤師の関与、中央材料業務のアウトソーシングの積極推進
  - ・キット化・ディスポ製品・プレフィルド製剤の採用
- などです。

今後も「安全・安心な手術の提供」を念頭に努力してまいります。

今回は南区原山台にて開業していらっしゃる金子院長をご紹介します。

## 診療科目：

整形外科・皮膚科・内科・リウマチ科  
リハビリテーション科・アレルギー科  
麻酔科・往診・訪問リハ

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
16:30～19:00	○	○	○	○	○	休診
訪問診療	○	○	○	○	○	○



住所：堺市南区原山台2-2-1 ガーデンシティ3F  
TEL：(072) 298-6838 TEL：(072) 293-5577



かねこ もとはる  
金子 元春 先生

## Q1. 標榜科は何ですか？

Ans. 整形外科・皮膚科・内科・リウマチ科  
リハビリテーション科・アレルギー科・麻酔科

## Q2. 医師を目指した動機（きっかけ）は？

Ans. 少しでも他人の役に立てる職業として医師を志しました。

## Q3. 診察する際に心掛けている事は何ですか？

Ans. 患者さんからの訴えをよく聞くこと、丁寧に診察・説明すること、その上で、最良の医療を提供することを心掛けています。

## Q4. 地域医療について

Ans. 一般整形外科のみでなく、これまでの経験を生かして、スポーツ整形外科分野やリウマチ治療についても地域に貢献できるよう努力したいと考えております。

## Q5. 当院への希望・要望

Ans. これまでのとおり病診連携による診察及び救急医療・開放病棟の受け入れを宜しくお願い致します。

## Q6. 最後に一言お願いします

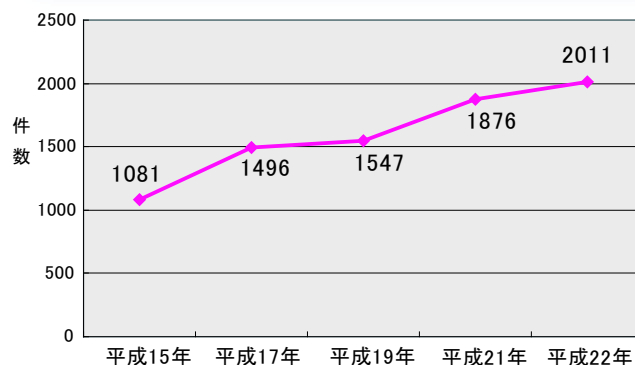
Ans. より質の高い診断・治療を志し、研修などの努力を続けていきたいと思っております。

地域医療支援病院として、医療の機能分化を明確に分担する一方で、高度な専門医療・救急医療が提供できるように取り組んでまいりましたが、おかげ様で、このたび平成22年6月度の登録医の先生方や周辺病院からの紹介件数が2000件/月を超えました(図)。これもひとえに、多くの医療機関のご理解とご支援のお陰と感謝申し上げます。

今後も、『地域医療連携室』は、更にスムーズで確かな医療連携が図れるよう、ハード・ソフトの改善、人材の育成に全精力を注いでまいります。

地域医療連携室  
室長 村上 佳代

## 医療機関からの紹介件数が月2,000件を突破



## 登録医のご紹介 平成22年9月21日現在 登録医総数 300件

地区名		医療機関名	院長名
北区	百舌鳥梅町	西谷内科	にしだに ひでき 西谷 英樹
	北花田町	典子エンジェルクリニック	ひなごし のりこ 船越 典子
	東浅香山町	大村内科	おおむら しゅんじ 大村 俊二
	新金岡町	新宮診療所	しんべつ ただし 新宮 雅
	金岡町	松山医院	まつやま ふみあ 松山 文夫
南区	赤坂台	石上整形外科	いしがみ ひとまる 石上 仁丸
		長谷川小児科	はせがわ かつひこ 長谷川 勝彦
	城山台	藤沢小児科	ふじさわ ひろと 藤沢 薄人
堺区	中瓦町	まなべ形成美容外科	まなべ こうじ 真鍋 幸嗣
中区	深井沢町	南波クリニック	なんば まさのり 南波 正敦
東区	白鷺町	矢吹クリニック	やぶき こうへい 矢吹 公平
		坂本産婦人科	さかもと かくえん 坂本 覚圓
		にしがき小児科クリニック	にしがき まさのり 西垣 正憲
		岡本内科	おかもと けいじ 岡本 圭司
	石津町	神原医院	かんばら かんじ 神原 幹司
西区	北野田	メリアクリニック	ひらの ともこ 平野 智子
	浜寺南町	徳川レディースクリニック	とくがわ よしひろ 徳川 吉弘
	鳳東町	石山診療所	いしやま けんじ 石山 堅司
	草部	木寺クリニック	きでら かつひこ 木寺 克彦
	鳳西町	松本内科クリニック	まつもと けいいちろう 松本 恵一良
おおとり診療所		おおとり かずひこ 大鳥 和彦	
美原区	平尾	永木医院	ながき ひろゆき 永木 寛之
	北余部	なかの医院	なかの たかひと 中野 隆仁
和泉市	伏屋町	井野医院	いの たけひさ 井野 武久
	鶴山台	とうじょうクリニック	とうじょう あさお 東條 修

(敬称略)

## 第2回 南大阪医学教育セミナー



8月7日、第2回南大阪医学教育セミナーが、110名の参加者を迎え、リーガロイヤルホテル堺において開催されました。

まず、大島利夫副院長の司会のもと、元大阪府立母子保健総合医療センター総長竹内徹先生が、「周産期医療の過去・現在・未来—周産期医療の進歩に伴うパラダイム・シフト、進歩とともに見落とししてはならない点はなにか」という演題で、医学、社会情勢の進歩と変化に伴って変貌を余儀なくされる医療が守るべき姿、特に母と児をあずかる周産期医学において、我々が心して失ってはならないものを説かれました。



藤森敬也教授



竹内徹先生

2つ目の特別講演は、私が座長を勤めさせていただき、「福島大野病院事件の総括」と題して、福島県立医科大学産婦人科学講座の藤森敬也教授から、日本の医療関係者を震撼させたこの事件の、発生から、産婦人科医の逮捕、無罪判決を獲るまでの経過をつぶさに伺いました。講演後の質疑応答では本事件の社会に及ぼした影響、さらに我々の医療に向かう心構えなどがフロアと活発に交わされ、参加諸氏の関心の深さを改めて感じました。

周産期医学研究所 所長 村田 雄二

## ピンクリボン運動 in なかもず駅

7月24日、乳がん自己チェック、乳がん検診受診の推進を目的に、チラシやパンフレットの配布を行いました。猛暑の中、熱中症対策を行いながら、総勢スタッフ30名での運動でした。

前年度は初めての試みとして泉ヶ丘駅と北野田駅で行いましたが、今回は南海高野線中百舌鳥駅と地下鉄御堂筋線中百舌鳥駅をつなぐ広場を中心に“乳がん検診を受診しましょう”と呼びかけました。買い物や通勤途中の方に声をかけ、足を止めて話を聞いて頂くことは大変難しく、苦勞しましたが、同時に子宮がん、大腸がんについてもパンフレットを配布し、検診の重要さをアピールできました。このような運動が、大阪府がん診療連携拠点病院として、地域の方に貢献できる第一歩であると確信しております。

PINK RIBBON

看護部 副部長 中山 美香



# 第7回さぬき メディカルラリー 優勝!!

全国から8チームが参加

6月12日、香川県五色台にて開催された『さぬきメディカルラリー』に出場しました。

メディカルラリーとは、災害、多数傷病者のトリアージ、事故、内科疾患など、現場のあらゆる状況の中で、いかに迅速に、効果的に対応するかを競う競技会です。単に診察、診断、治療といった病院での流れとは全く異なり、現場の状況評価→情報収集→トリアージ→治療→病院交渉→搬送までの一連の流れとして行います。実際の現場のように多くの傷病者に対し、助けを求める声、雑音の中で冷静に、迅速に対処する力が求められました。

急病救急部・北岸部長の声かけで、当院研修医和田医師、ICU西井看護師、堺消防局向救命士の4人で堺チームを結成し参加しましたが、いざ本番となると緊張の連続でした。



(左より)

和田医師、西井看護師、信貴医師、向救命士



今回は

- ①室内でのCO中毒、2名に蘇生を行う
- ②交通事故車内から2名救出、心肺蘇生と妊婦への対応を迫られる
- ③崩落現場の多数傷病者の対応
- ④2名を巻き込んだ鉄パイプ穿通性外傷の対応

の4シナリオでした。炎天下の中少ないマンパワー、医療資源をいかに有効に使い、緊急度、重症度を把握し、優先順位を決める、病院では経験できないことを学びました。実際の現場を経験していないので、災害医療の本当の難しさ、重要性を実感することは難しいですが、もしものときに少しでも役に立つ知識と経験となりました。

整形外科 信貴 厚生

# がんのリハビリテーション研修

TOPICS 1

7月31日・8月1日 於：国立看護大学校

平成22年の診療報酬改定にて、リハビリテーション分野にがん患者リハビリテーション料が新設されました。本施設基準を取得するには、がんのリハビリテーション研修を終了している必要があります、今回は10倍近い応募の中から当院が参加する事ができました。

この研修会は、チーム医療の観点から医師1名、看護師1名、理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士のうち2名の合計4名のチーム参加が条件です。講師陣も多職種にわたっており、がんのリハビリテーションについて様々な方向から知識・技術を学ぶ事ができました。

今後も、大阪府がん診療拠点病院として地域におけるがんのリハビリテーションの向上に貢献できるように取り組んでいきます。

理学療法室 主任 福井 義幸



(写真左より) 作業療法士 松本  
理学療法士 福井  
外科部長 藤尾

# 外来化学療法室を増床しました

TOPICS 2

当院では1ヶ月平均200件、多い日では約17名の方が外来化学療法室を利用されることもあります。そのため、治療開始までの待ち時間が発生し、患者さんにご迷惑をおかけすることも多くなってきたことから、今年の7月21日より外来化学療法室を7床から11床に増床しました。

がん化学療法の治療薬も日々進化し多様化し、当院の化学療法のレジメンは現在約100種類登録され、消化器外科、乳腺外科、消化器内科、呼吸器内科、婦人科の患者さんが外来化学療法室を利用し治療を受けておられます。

今回、増床したことで、明るく開放感がある環境で治療が提供できるようになり、確実に安全な投与を実施するために、ネームプレートやベット番号を作成するなど様々な工夫もしています。

今後も安全、安心して治療を受けていただくことを基本とし、治療中の患者さんの苦痛を最小限にすること、またその後の治療と生活を長期にわたって支援していけるよう努力していきたいと思っております。

外来 リーダー 高橋 陽子







# がん化学療法看護 認定看護師

科長補佐 **中村 充代**  
あつよ



## がん化学療法看護 認定看護師とは

1. がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理、副作用症状のマネジメント
2. がん化学療法を受ける患者さん・ご家族のアセスメント及び、問題に対するマネジメント能力向上のための支援を行っています。

2010年8月現在、全国で名、大阪で<sup>3</sup>名のがん化学療法認定看護師が活動しています。

### 当院での

### がん化学療法認定看護師としての活動

化学療法は、手術療法や放射線療法と比べ、歴史は浅く、新しい抗がん剤の開発や、がん細胞だけを狙い打つ分子標的治療薬を使った画期的な治療法の登場により、急速な進歩を遂げています。新規薬剤による副作用、高額な医療費などの社会的問題もあり、より高い専門性を有する看護ケアを提供することが求められます。

がんと診断され、抗がん薬治療が

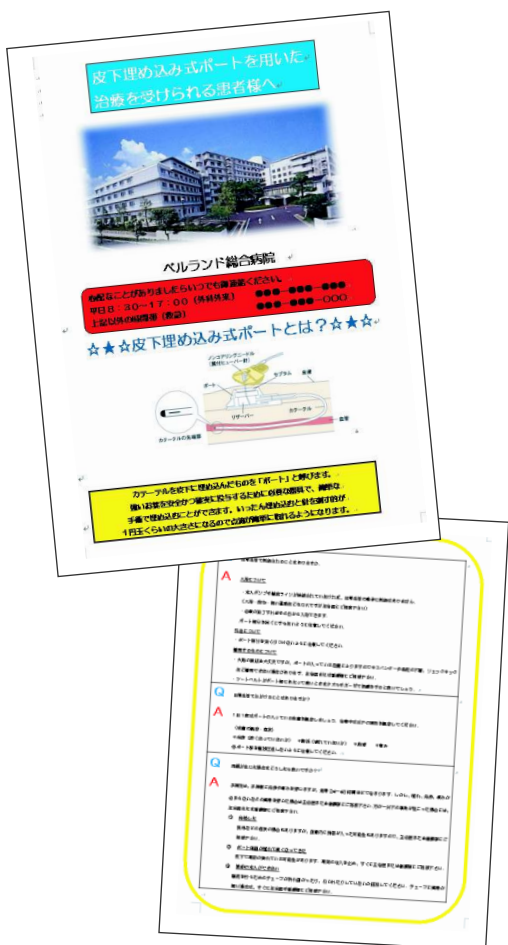
627

選択肢の一つとなった患者さん・ご家族が病気や治療について理解した上で、「自分の生き方」や「価値観」に沿った意思決定ができるように共に闘い支援することが役割だと考えています。そのため今後、患者さんの最も近くに存在する医療者としてがんカウンセリングを医師と共に行い、最善の選択ができるように支援していきたいと考えています。

国の政策により、外来での化学療法は年々増加しています。入院治療と違い、自宅に帰ってから副作用がでるために、患者さん自身がしっかりとした知識を持つ必要があります。

大腸がんの治療では、<sup>4</sup>時間後にポト針を抜くだけのために来院する患者さんが存在します。自宅で過ごせる時間を通院にかける「その人の時間の重さ」を配慮し、化学療法を受ける患者さん・ご家族の不安を和らげ、安全に治療が受けられるようにポト針自己抜針へむけての活動をしたいと考えています。

一方、抗がん薬という毒性の強い薬物を取り扱う際に、看護師自身への曝露予防や薬物に関する専門的な知識・技術の研修会を実施し、患者の安全だけではなく自分自身を守れる看護師の育成に携わっていきたいと感じています。



がん治療の患者さんに、治療にともなう処置のQ&Aを組み込んだ説明書を作成。説明に携わる看護師を対象に勉強会をおこなっています。

# Hola! スペイン・フラメンコの魅力

スペイン語でこんにちは。

スペインで有名な踊り、フラメンコを始めたのは約7年前のことです。

背が高くすぐ猫背になっていた私は、ただ姿勢が良くなりたいと思いカルチャーセンターへ通い始めました。初めは週1回の練習でしたが、どんどんその魅力にはまり、気が付くと週2～3回の練習にあげられる毎日を過ごすようになっていました。先生のご好意もあり、今は舞踊団として舞台上で他の舞踊団員とともに躍らせて頂いています。

麻醉科 副部長 山口 綾子



4年前には、フラメンコ三昧ツアーと題して先生方と、スペインへ行ってきました。毎晩タブラオ（晩に開かれるフラメンコライブ。スペインの夜は長く21時ごろから1部が始まります…）を観にいき、スペイン人アーティストによるフラメンコレッスンも受講しました。ひとつひとつ手作りされるフラメンコシューズのお店にも立ち寄りましてし、衣装、髪飾りなどを目にするたびにテンションはあがる一方でした。

スペインで有名なガーリックのスープ、ソパ・デ・アホです。これがまた美味で、体がポカポカしますよ。ほかに夏野菜の冷製スープ、ガスパチョも有名です。あっさりがお好みの方にはこちらの方がおすすめかも♪



スペインに行かれたら、是非アンダルシア地方へ足を運んで下さい。コルドバのメスキータ、グラナダのアルハンブラ宮殿、セビーリャのヒラルダの塔、ロンダのヌエボ橋、もちろんフラメンコもアンダルシア発祥とあってマドリードとは全く違う踊りを観ることが出来ます。心の底から身体にひびきわたってずっしりと伝わってくる踊りは、今までに観たことがなく感動したのを覚えています。

白い壁におおわれたヘレスの町並みは、それはもう神秘的で一番好きな風景の一つです。見渡す限りオリーブ畑がひろがり、ホテルのベランダから一望すると吸い込まれそうになります。シェリー酒も頂きました。ヘレスにはシェリー酒の工場があるんですよ～。あっ、あとフルーツをお酒で漬け込んだアルコールのサングリアもおいしいですよ～。

さてさて、長々とスペインの魅力について語らせていただきましたが、最後に今年、イベントで踊った時の写真をひとつ…（右上部写真）。今後も公演予定があるので、興味のある方は是非一度観にいらして下さい…ね♪

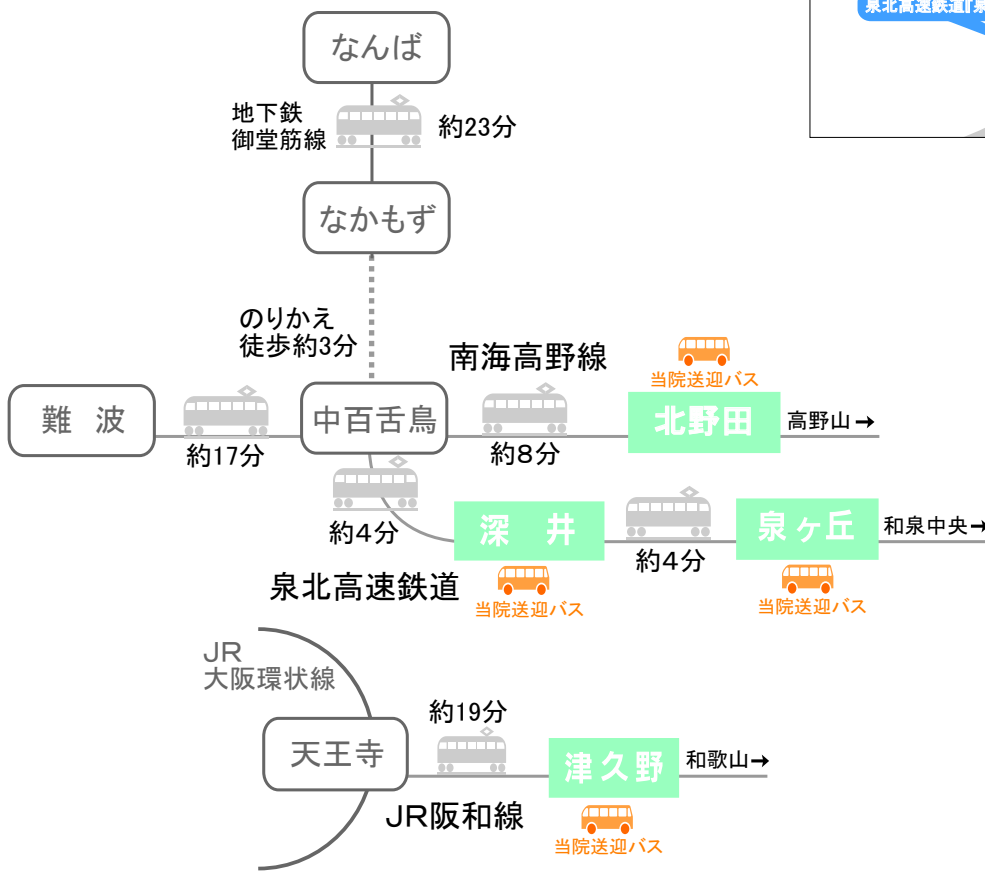
Adios! (bye,bye)



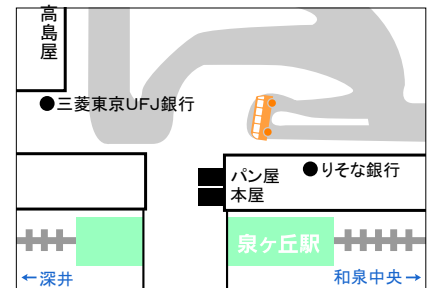
# 交通のご案内



## 病院近辺MAP



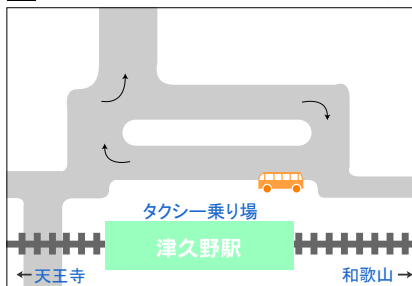
### ■ 泉ヶ丘駅 送迎バス乗り場



**【泉ヶ丘駅発 ベルランド総合病院行き】**  
 7:30~13:45まで毎時00・15・30・45分発  
 14:00~19:30まで毎時00・30分発  
**【ベルランド総合病院発 泉ヶ丘駅行き】**  
 7:20~13:50まで毎時05・20・35・50分発  
 14:20~19:20まで毎時20・50分発

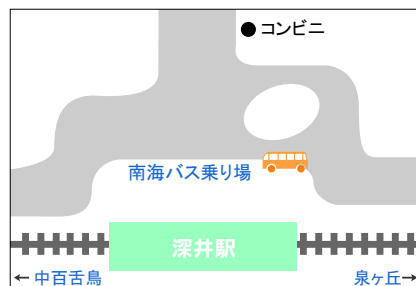
※南海バス(東山車庫前・深井駅行き)は、1時間あたり約2本出発

### ■ 津久野駅 送迎バス乗り場



**【津久野駅発 ベルランド総合病院行き】**  
 8:20~15:20まで毎時20分発  
**【ベルランド総合病院発 津久野駅行き】**  
 8:00~15:00まで毎時00分発

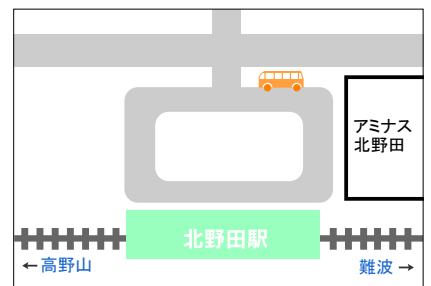
### ■ 深井駅 送迎バス乗り場



**【深井駅発 ベルランド総合病院行き】**  
 8:35~15:35まで毎時35分発  
**【ベルランド総合病院発 深井駅行き】**  
 8:00~15:00まで毎時00分発

※南海バス(泉ヶ丘駅・あみだ池行き)は、1時間あたり約3本出発

### ■ 北野田駅 送迎バス乗り場



**【北野田駅発 ベルランド総合病院行き】**  
 8:45~17:15まで毎時15・45分発  
**【ベルランド総合病院発 北野田駅行き】**  
 8:30~17:00まで毎時00・30分発

※南海バス(西区役所前・東山車庫前・深井駅行き)は、1時間あたり約3本出発

# Bell Letter

地域医療連携室では、以下の業務を行っています。

- ①診察・検査の予約
- ②入院の受け入れ
- ③診療情報提供書の返信チェック
- ④当院からの逆紹介
- ⑤共同診療の運営・管理

①②に関しましては、医師への確認・院内調整を行い、  
予約票（来院日時）を作成しFAXにてご報告いたします。

その他、ご依頼等がございましたら、お気軽にお問合せ下さい。

## 地域医療連携室業務時間

月～金曜日（午前9時～午後8時）  
土曜日（午前9時～午後5時）

医療機関様専用

TEL：0120-13-9215（直通）

FAX：0120-53-0096（直通）

一般の方は、代表番号(072-234-2001)におかけ下さい。